結 句	転句	承句	起句	生	
1/ •	惻	今。	令•	題	神奈川
齊○	惻 •	E •	和。	冬夜	, 県漢
排。	天。	山。	惡。	裁詩	詩連盟
問 •	寒〇	妻○	疫•		神奈川県漢詩連盟九詩期会
强 •	冬○	臥•	不•		会
裁。	且	病・	曾〇	支	(七言絶句
詩◎	晚●	時◎	知◎	韻	絶句 )
	読み	下	し文		作詩日
小斎にて 悶を排して	関々として天寒き冬	今日山妻 臥病の時	令和の悪疫 曾て知ら	冬夜裁詩	日 令和五年一月五日
強いて詩を裁せん	且に晩れんとし	4.5	ず		牛山 知彦
	小 齋 排 悶 强 裁 詩 小斎にて 悶を排して · ○ ○ ○ · ○ ○	・	○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ○ ● ● ○	・ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	→ の の の の の の の の の の の の の の の の の の の

2021.07.19 第1.5版

語註・典故・	作詩	× モ	結	句	乾	句	承	白	赵	自	44		912000
	A PROPERTY OF THE PROPERTY OF	課題詩	茅		推		創		窓		一 詩 題		神奈川
			屋		敲		詩		外		冬夜	Process	神奈川県漢詩連盟九詩期会
			清		獨		苦		風		冬夜裁詩		可連 盟
			寧		坐		問問		収				九詩期
and the second s			寒		孤		欲		月月				会【詩箋】
			気		燈	12	]=		影		庚	(七言絶句	笺
			生	0	下	•	更	0	清	0	韻	紀句)	
その他の	メモ						1			and the second	T	作詩日	平仄式
	The state of the s		茅屋の静寧寒気		推敲し獨坐する		創詩に苦悶して三更に浴す	ソファクモッ	窓外風収り	カゼ	冬夜詩を裁す	令和五年一月	仄 起 式
			寒気生ず	1	孤灯	5	更に	9	月	у <del> </del>			名前
					の下		がすり	7	月影清し	÷ =			宇野次郎
									ri	THE REAL PROPERTY OF THE PERSON NAMED IN COLUMN 1			

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩簿

	<b>提出</b>	令五·一提	作詩日	言絶句)
岡嶋 宣昭	名前		平仄式	爻

	結 句	転句	承句	起句	詩
	不●	擁●	夜●	枯・	題
	覺●	爐。	深〇	木•	冬課
	書。	呵。	庭。	粧○	冬夜裁詩
	窓。	筆●	院●	成。	詩
	寒。	耽。	雪・	分。	
	月・	詩。	晴〇	外•	支
	窺◎	律●	時◎	奇◎	韻
その他のメモ					
耽詩律→詩作に打ち込む	覚えず 書窓 寒月窺うを	炉を擁し 筆を呵して 詩律に耽れば	夜深の庭院 雪 晴るる時	枯木 粧成り 分外に清し	冬夜 詩を裁す

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

中仄式 仄起式 名前 髙橋 幸雄

	神奈川
	県
	漢
	詩
	的連
	盟
	れ
	詩
	期
	会
	_
8 8	詩箋

(七言絶句)

	1 / 2 / 2 0 2 3	作詩日	絶句 )
武田 一郎	平起 式 名前	平仄式	as Surav

R
で ( ) :
の の
(A) が積 は (B) が積 も (B) を (B
番 ( ) 雪 ( ) 凍 ( ) 東 ( ) 表 ( ) で (
裁 ○   不 •   座 •   支   支   対 ○   就 •   枝 ©   垂 ◎   韻
で
その他のメモ
炉。 開於 傳。 寒沈 冬流
寒蔵の冬夜 寒

神奈川
県漢
次詩 連
盟
九詩
期会
詩箋

(七言絶句

	9日	令和4年12月	<b>4</b> 年	令和	作詩日
平賀康雄	名前	式	起	平	平仄式

5註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩
〇〇〇〇 三寒徂猝 余斎〈猝	徹●	可。	兀●	光〇	題
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	宵○	謝・	坐●	陰○	冬夜
時べ部進くのき屋む過ぎ	燈○	三〇	寒○	猝●	冬夜裁詩
り の の る 様 と ○ 毛 曜 ・	下•	餘○	齋○	猝●	
りの時の会	案•	天。	獨〇	憮・	
りの冬と日と坐るに思	燕 ○	賜・	睡●	徂。	支
の う 余 り	詩	處	遅	時	韻
その他のメモ		読 み	下	文	
	徹宵燈下蕪詩を案ず	謝すべし三余天の賜いし処	寒斎に兀坐して独り睡ること遅し	光陰猝々徂く時を憮くしむ	冬夜裁詩

語註・典故・作詩メモ	結 句	転句	承句	起句	计
	吟 0	人。	漢 •	天。	詩科
	詩。	境 •	漢 •	空。	冬夜
	欲•	無。	銀•	月 •	冬夜裁詩
	極・	涯。	河。	落●	神奈川県漢記連盟九記期会一記箋
	対・	不 •	星。	凛●	会
	蒼○	窮○	布	寒。	(七言絕句
	<b>注</b> <sup>◎</sup>	遠•	長◎	光◎	韻
その他のメモ					作平詩及日式
	詩を吟じ極めんと	人境涯無く不窮の遠きにジンキョダテナ フッキュウ トキ	漢々たる銀河は星布長し	天空に月落て寒光凛たり	詩題の読み 月八
	んとして蒼茫に対す。	遠きに	布長し	凛たり	日前

2021.07.19 第1.5版

語註・典故・作詩メモ	結 句	転句	承句	起句	يد	
潜披半懷卷甜酸	潛○	歳●	披○	書○	詩題	神奈川
人作祭れの書の書と	懐○	晚●	卷。	棚。	歳晩	県漢
とし、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	寂•	祭○	人。	致 ●	歳晩祭詩	詩連盟
が半分つつ	念•	詩〇	忙。	思・		九詩
	獨・	何〇	夜●	半●		神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】
	長〇	日•	已•	甜。	寒	(七言絶句
	歎◎	遂•	闌 ◎	酸◎	韻	絶句)
その他のメモ		<b>説</b> み	FU	, Ż	<b>!</b>	作界仄式
	潜懐の寂念 独り	祭晩詩を祭ること	巻を披きて人は忙し	書棚思いを致せば	歳既祭詩	日 令和四年十二月
	り長く歎ず	何れの日か遂げん	し 夜 已 に 開なり	半ば甜菜酸		松本祐輔

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

平仄式 令和五年一月五日 平 起 式 名前 三浦昭二

語註・典故・作詩	メモ	結句	転句	承句	起句	詩	
	玉玲瓏	鍾 0	坐 •	詩〇	幽〇	題	神
	• • • 雪	声〇	案●	興・	庭○	冬夜	) 男
	が美しい	隱●	僧○	旺・	松〇	冬夜裁詩	i i
		隱•	堂〇	盛。	葉•		対言
		曙●	新○	独・	玉。		対言其会
		光〇	詠•	徘●	玲〇	東	(七言絕句
		紅◎	作•	徊 🌼	瓏◎	韻	紀句)
その他のメモ			読み	F	し 文		作品品
		鐘声隠隠 曙光紅	僧堂に坐して案じ 新津	詩興旺盛 独り徘徊す	幽庭の松葉 玉玲瓏	冬夜栽詩	日全
			新詠作る				· 春名正彦

語註・典故	作詩メモ	B	与句	乾	;句		承句	,	邑句		7	
風吟漫思する	な一青 灯	Ξ	0	案	•	風	. 0	青	0	詩題		神奈川
一フウセーフウセース 「文思」、	コしかの	更	0	句	•	霰	•	燈	0	冬夜		川県漢
で長章 一日要はに一日	があめ 心れの	未	•	爐	0	敲	. 0	1-	•	冬夜栽詩		詩連明
ウサン(脚ウサン(脚	らるえる	寝	•	邊	0	怱	0	穂	•			九詩
(慣音) 「関音」	こくとれり	徹	•	時	0	老	•	思	•	The second secon		神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】
がいさま	な穂	吟	0	啜	•	屋	•	漫	0	寒	(七言絶句	詩箋】
2	感じがな	肝	0	茗	V Pack and distribution of the control of the contr	寒	0	漫	0	韻	句)	
その他の	)メモ			拢	131	4	ド	L	文		作詩日	平仄式
		三更未だ寝ず吟肝に徹す		炉辺に句を案じ時に茗を啜る		報窓を高		青灯一穂思漫漫	is i	冬夜詩を裁す	令和五年一月	平起 式 名前
				- 啜る							初稿	諸星暢義

2021.07.19 第1.5版

孫註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩	
没思する青穂灯   1	未	爐。	青。	風。	題	神
で、文書を記述された。	寝・	邊。	燈。	雪。	冬夜	月 月
でますして だめの かんこ ない できょう かんしゅう かんしゅう はんしゃ こり はんしゅう はんしゅう こり かんしゅう しゅう かんしゅう かんしゅ かんしゅん しんしゃ かんしゅん かんしゃ かんしゃ かんしゃ かん かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ	三。	案●	-	侵○	冬夜裁詩	不是一旦沒言这里才言其名
遠に 盛まって だ火 を照らして た 満 た 満 た だ	更。	句。	穂 •	窗。		対言
さま。又夜のなりれた思想——— ちんだしてくれ ちんだしてくれ	興・	時〇	思・	老•		其
がいさま 参考とする を考とする	正・	煎	漫 0	屋 •	寒	(七言絕句)
ある。のような		茗●	漫◎	寒◎	韻	<b>超句</b> )
その他のメモ		読み	F L	文		作品
	未だ寝ず三更興正に開なり	炉辺に句を案じ時に茗を煎る	青灯一穂思漫漫たり	風雪窓を侵し老屋寒し	冬夜詩を裁す	今和五年一月 二稿
						話星暢義

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

-	2 3 F	2	2	作诗日

山

口

幸雄

語註・典故・作詩メモ 結 句 転 句 承句 起 句 詩 00 寒〇 結 天。 取• 讀 月●「句 喉絮 題 天〇月は 吻煩 心○天蕪 ○心村 01 服・ 書。 冬夜裁詩 彼● 0 2 ととく 貧○貧の 村〇し ロど tL 村 寒 苦• 捐。 舐• 0 を とい 天〇通 1301 b 寒日・り」 ずら 茶 之 月 筆 0 挂● わ 貧○より L 喉 0 覓 挂 倦 2 Ļ 貧 七 孤。 佳 0 村↓ 言絶句 元 孤 韻 村 言 熱 村◎ 煩 0 0 15 その他のメモ 天心 彼前 書は 寒苦あ本 月いれを 服 を を は茶こ読 冬夜 0 取 読」 天をれみ 0 心一の筆 寒月、 苦茶、 h 4 に服煩をあす雑紙 詩し 筆 を を 捐 つれなめ を 裁言 てば取な 孤芸な 喉 舐力 喉捨が す 村 吻 こに選ら め、 の熱択詩 15 1= 寂くにに 熱 絮煩 あ 挂が 佳言を覓む、 倦っ 11 か んたで佳 村 る。 1= を きた。探 倦 照らしている。

2018.03.10 第1.4版